JFMだより

Vol.12

※JFMとは、
Japan
Finance Organization
for Municipalitiesの略称です。

今号の表紙

熊本県熊本市　熊本市交通局
90周年記念車両「COCORO」

JFMトピックス …… P1
【融資の実】熊本県熊本市　熊本市交通局 …… P3
がんばる公営競技 …… P7
自治体ファイナンス　よもやま話 …… P9
地方支援ダイアリー …… P11
基金運用ひとくちメモ …… P13
JFM人事交流日記 …… P14
私たちもJFM債買ってます! …… P15
JFMからのお知らせ …… P15

地方の、地方による、地方のための
地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

緑のじゅうたんを走る0800系超低床車

熊本県熊本市　熊本市交通局

融資の実

市民に愛され90周年

～これからも親しまれる市電を目指して～

環境への優しさ、他の公共交通機関にはない利便性などから、今、あらためて注目を集める路面電車。市民の強い愛情に育まれ90年の歴史を迎えた熊本市電は、利便性・魅力向上を目指した地道な取組みと大胆な新車両導入により、今、新たな進化を遂げようとしています。

開業当初坪井川沿いを走る市電
（大正13年～昭和3年）熊本百景絵葉書より

熊本を代表する風景、熊本城と市電

市街地をクルマと並んで走る路面電車は、その街のシンボルとなっているものが少なくありません。札幌、函館、広島、長崎――、そして熊本。

熊本城をバックに収めた1ショットは、熊本を代表する風景です。

開業したのは、大正13(1924)年8月1日。平成26年に90周年を迎えた歴史の長い路面電車ですが、昭和40年代には廃止の危機に。モータリゼーションの広がりによる乗客数の減少や道路整備のため全線廃止の声が上がったのです。

しかし、オイルショックをきっかけにクルマ依存社会を反省する気運が高まったこと、何よりも長年にわたって市民の大切な足となってきた市電への市民の強い愛情により、市電の存続が決まりました。

一時は廃止の危機に瀕した市電ですが、近年ではCO_2の排出削減やヒートアイランド現象の抑制など、環境保護の面から都市部における路面電車の活用があらためて注目されており、存続した意義がさらに増すことになっています。

熊本市電は現在、熊本市の中心部を東西に結ぶ、健軍町～辛島町～田崎橋のA系統と、健軍町～辛島町～上熊本駅前のB系統の2系統を運行。朝夕の交通渋滞の影響を受けない定時性と、一律150円の手頃な運賃、路面電車ならではの利用のしやすさで、通勤通学、ショッピングなどの足として幅広く利用されています。

より愛される市電を目指すため

市電が将来にわたり熊本の街を走り続けるため、平成21年度から経営健全化計画が始まりました(平成27年度までの7年計画)。

市電を運営する熊本市交通局はこれまでバス事業も手がけていましたが、これを民間事業者に移譲。平成26年度末ですべてのバス路線の移譲が完了する予定です。そして電車事業に特化する交通局が推し進めているのが、経営の効率化とともに、ハード面で利便性を高め、ソフト面で魅力を強化して、今までより更に市民に愛され利用してもらえる熊本市電になること。

日本初のサイドリザベーション

利便性の向上では、平成22年4月に熊本駅前電停～田崎橋電停間のサイドリザベーションを日本で初めて実施しました。サイドリザベーションとは、道路の中央部を走っている市電の軌道を端に移すもので、歩道からの乗り降りのしやすさが大幅に高まります。また、ICカード「でんでんnimoca」の導入、一部の電停でのバリアフリー化工事など、より利用しやすい市電になるための取組みが様々な角度から進められています。さらにJR熊本駅には平成23年から九州新幹線の乗り入れも始まり、新幹線から市電へ、そして熊本城やその周辺の繁華街へと移動しやすくなったことは観光客からも好評を博しています。

一方、ソフト面での取組みの代表例が平成18年から行っている「ビアガー電®」。これは7～9月の毎晩、1日1組限定の貸し切り電車で、車内の両サイドに窓に向かって座るバーカウンターを設けた、まさに走るビアガーデン。定員28名、1万8000円(飲食物は持込み)。手頃な料金で特別な体験ができることから大変な人気があり、平成26年の平均抽選倍率は30倍を超えています。

「お客さまのほとんどは地元の方です。私たちもこれを収益源にしようというより、市民の方たちに市電をもっと親しん

ビアガー電車内
ビアガー電

COCORO二本木口上り

でいただきたい、楽しんでもらいたいと思って『ビアガー電®』の運行を続けています」（熊本市交通局　総務課　主幹兼主査・松本光裕さん/「」内のコメント以下同）

冬にはLEDのイルミネーションをまとった市電が夜の街を豊かに彩り、母の日・父の日・敬老の日には車内が生花で装飾されます。車体に様々なラッピングをまとった電車の中にはパトカー風のデザインもあり、交通マナーの啓発にも貢献しています。「くまもと城下まつり」など街の大きなイベントの際には終日無料運行をするなど、市電は市民のことを第一に考えて運行されています。このことが市民に愛される市電の秘密なのかもしれません。

また、軌道上の一部区間に芝生が植栽されていますが、これは熊本市の環境局が主体になって平成22年度から進めている「市電緑のじゅうたん事業」に協力しているもの。緑化面積は順次広がっており、都市景観の向上やヒートアイランド現象の緩和などに役立っています。

父の日のフラワー電車

90周年を記念した新車両「COCORO」

街中では、新旧の電車、様々なデザインの電車が頻繁に行き来して目を楽しませてくれますが、最も古い物では昭和26年から使われている車両もあり、老若男女に親しまれています。

しかし公共交通機関としての実用面、利便性を考えたとき、バリアフリー化への対応も早急に図る必要があります。熊本市電は、厳しい経営状況の中にありながらも乗り降りのしやすい超低床電車の導入に努めており、現在は9700型・10両（5編成）、最新の0800型・6両（3編成）が運行しています。

「超低床電車は『平行式エレベーター』とも呼ばれていて、電停との段差がほとんどなく、車椅子でもそのまま乗り降りすることができますが、価格が高いため多くの車両を導入できないのが現実です」

超低床電車は、全54両のうち16両（8編成）と少ないのですが、お年寄りや身体の不自由な方の中にはこの電車が来るのを待って乗車する方も少なくないそうです。

0800系超低床乗の乗降口

COCORO出発式

平成26年10月、超低床電車0800型をベースにした新たな車両が走り始めました。熊本市電の運行開始90周年を記念したこの特別な車両は、JR九州管内で個性的なコンセプト、デザインの列車を数多く生み出し、最近でも九州新幹線「つばめ」や豪華クルーズトレイン「ななつ星　in　九州」で話題を集める水戸岡鋭治氏が内外装をデザイン。車両名も特別に「COCORO（こころ）」と名づけられました。「『COCORO』の導入は、交通局だけでなく、観光局など他部局と協力することにより実現しました。市全体として取り組んだこの電車が走り始めることで、市電への愛着や興味がさらに高まることを期待しています」

0800系超低床車

「COCORO」は、熊本市の歴史・文化を感じる、懐かしくて新しい、伝統と誇りを表現できるデザインとしました。外観は一色で、黒に近い濃茶のメタリック塗装された車体に、伝統的な品格を金色のシンボルマーク、ロゴタイプを、飾り文字で表現し、在来車両との区別化を図り、豊かな路面電車を目指します。

内装には木を可能な限り使うことで「森と水の都くまもと」を表現。明るい木と濃い木を使うことで、一両で二つの空間を楽しんでいただけます。木の手触り、香りが今まで味わったことのないエコロジカルな路面電車は、心と身体で本当に心地良く、見えてくる街並も新しく再認識される路面電車となります。

ネーミング、ロゴタイプは、子どもからお年寄りまで、いろんな方々が乗られるLRV*では、思いやりの「心」を大切に。熊本を訪れる観光客の方々には、おもてなしの「心」でお出迎えをしたいとの思いから、わかりやすさと覚えやすさ、見た目にもどこか優しさを感じられる、丸みを帯びた「COCORO（こころ）」としました（*LRV：Light　Rail Vehicle/軽量軌道用車両）。

水戸岡氏は実際に熊本の様々な場所に足を運び、市民とも語り合った上でこのコンセプトを練り上げたとのこと。歴史と文化に裏打ちされた風格があり、自然にも恵まれ「人・こと・もの」のバランスがとれた良い街である熊本。「COCORO」は90周年の記念車両として市外・県外からのお客さまを呼び寄せるにも十分な魅力を備えた路面電車となりました。

子どもに人気。
チキンラーメンラッピング車両

熊本市電は、今日も熊本市民のこの土地への愛と誇りを喚起する電車として走り続けています。

熊本市情報コーナー

熊本市は九州の中央、熊本県の西北部の位置にあります。

地勢は、金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯、西部は白川の三角州で形成された低平野からなっています。

気候は、有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。

熊本市はサービス産業が中心の都市です。そのほか、IC産業の集積、全国でも高い生産性を誇る都市型農業、水産業など各種産業が展開されています。

熊本県熊本市情報コーナー

人口　740,204人　315,318世帯（推計人口）
※推計人口は、平成26年10月1日現在です。
面積　389.54平方キロメートル

熊本市の公式キャラクター
ひごまる